

○事業所名	花ことば（児発）		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 15日		～ 令和7年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 15日		～ 令和7年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語の個別療育を実施している。	個別療育に関しては、集団活動が始まる前に時間を確保している。来所時間をみて時間を決めながら介入している。児童により利用回数も異なるため、その週の利用回数と介入回数を見ながら実施している。	個別療育の内容を検討しながら、小集団にどう汎化させていくか。理解と表出の方法を検討する。
2	小集団活動と個別療育の時間を確保している	小集団活動では、お友達を意識しながら行う活動や周囲のペースを見ながら行動できるよう進めている。個別療育の中では咀嚼や発音、コミュニケーション力など児童の課題を確認しながら実施している。	小集団活動の中で、自己発信したり、他者の意見を聞くよう設定を作る。
3	活動を固定化しないために週ごとに活動内容の変更を行っている。	週ごとに活動を変え実施している。季節の行事を取り入れたり、前回した事を繰り返す事で目や体の使い方を学べるようにしている。週2回利用で、できた！を経験できるよう設定している。	色々な経験をして、失敗と成功を繰り返す事で「できた！」を経験できるよう関わっていく。できなくてもいい、やり直してもいいを学べるよう取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動時間が短い	個別療育と小集団療育を毎日実施しているため、時間配分が短くなっている。	時間配分を確認し、職員間で連携して動く。
2	自由活動の際、遊びが固定化されている児童がいる。	好きな遊びの選択など必要な自己選択ではあるが、固定化されている子どもがいる。また、お友達と共有したり協力することが少ない。	職員が仲介することで遊びを共有したり、遊びを広げられるように関わる。遊び方を教えて広げていく。
3	園行事が続くと利用ができない事がある。	利用曜日を固定してしまっているため、園行事が入っていると休む事が増える。園によって固定の行事と臨時の行事があり休みが続くと慣れるのに時間がかかったり、口の動かし方など維持が難しくなる児童がいる。	園行事の予定をご家族に確認し、利用曜日の振替を行うよう対応する。随時利用する事で口の動きや会話力の維持につながるよう対応する。

○事業所名	花ことば（放デイ）			
○保護者評価実施期間	令和8年 10月 15日		～	令和8年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和8年 10月 15日		～	令和8年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を実施している。	複数回利用している子供は利用日と時間を検討しながら介入できている。 個々の課題を検討しながら言語の個別療育を実施している。	個々の課題を振り返る事や集団と個別の中での言語力の差を見ながら、児童の現状を把握する。
2	職員間で情報の共有ができ、活動の充実に生かす事ができている。	週1回の振り返りを行う事や日々の状況を報告することで、「明日は〇〇してみよう」活動を充実できる様に連携を図る事ができている。	開始する前に職員の行動を確認することで、スムーズな動きと連携を図るように対応する。
3	言語と療育と並行して行う事ができる。	言語療育と小集団活動を実施することで、専門性のある療育に取り組む事ができている。	個別と小集団の反応の差を確認し、どのように汎化していくかを検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動時間が短い。	小学校高学年となると下校時間が遅く、個別療育と小集団療育の両方をすることが難しい。 児童によっては、宿題を終わらせたい気持ちがあり、活動に乗れない事がある。	曜日や学年を分けた活動の組み立てを検討する。 児童によってスケジュールを組み立てる。
2	小学校6年生までの受け入れになっている。	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型10名で登録をしているため、6年生までの受け入れになっている。	児童発達支援管理責任者の育成などを検討し、事業所の拡充を検討する。
3	夕方の送迎が難しい。	人員、車両が不足している。 また、保護者と日々連携を図る機会の必要性を考えているため。	必要に応じて車両と人員の確保を検討する。 必要に応じて送迎を実施。 保護者の意向を取り入れる。

○事業所名	花ことば（訪問）		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 15日		～ 令和7年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 15日		～ 令和7年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 10月 15日		～ 令和7年 11月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士と保育士、看護師など多職種連携を図る事ができる。	アセスメントや情報共有を職場内で行う事で、様々な視点からの支援を検討している。	多職種での連携を図る。また、訪問支援を拡充させ、職員の実験を積む。
2	訪問先の希望とご家族の希望を確認しながら、ことばに特化した訪問をすることができている。	利用児童の課題や困りを共有し、訪問することができている。明確な目標を共有しながら介入している。	訪問先での個別療育の介入時間や訓練場所の確保、環境設定を調整する。
3	訪問先の施設との連携ははかれている。	個別療育での訪問、間接支援など児童の状況に合わせて訪問方法を変更することができている。また、訪問後に学校、保育園、学童の先生等と連携を図ることができている。	訪問後のフィードバック以外にも情報共有できる時間を設けて細かく共有や支援方法を検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者とは面談やメールなどを活用して連携を図る事ができているが、3者以上の連携となると頻度が少ない。	担当者会議が少ない。事業所としても積極的な開催を提案できていない。	担当者会議に積極的に参加し、児童にかかわる人全体で共有する機会を作っていく。
2	訪問先へのフィードバック時間の確保が難しい。	保育中や授業中、学校終了時に介入しており、先生たちと話す時間の確保が難しい。都度フィードバックは実施しているが、短時間となっている。	担当者会議に積極的に参加し、児童にかかわる人全体で共有する機会を作っていく。フィードバックをする時間を別に確保するなど検討する。
3	訪問先の支援方針に沿った支援方法の提供、提案が難しい。	児童の課題と訪問先の困りの差がある場合に支援方針と支援方法の一致が難しい時がある。	定期的介入することや一つの支援方法にこだわらず、他にどんな方法があるかを検討する。